

## 1 調査の目的

---

本調査は、「市民活動」・「消費生活」・「生物多様性」について、市民の意識・評価・要望などを把握することを目的とした。

## 2 調査の内容

---

「市民活動」・「消費生活」・「生物多様性」について

## 3 調査の設計

---

- |          |                          |
|----------|--------------------------|
| (1) 調査地域 | 富士市全域                    |
| (2) 調査対象 | 富士市在住の満 18 歳以上 80 歳未満の市民 |
| (3) 標本数  | 3,000 人                  |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳から無作為抽出            |
| (5) 調査方法 | 郵送配布 — 郵送回答またはインターネット回答  |
| (6) 調査期間 | 令和 6 年 6 月 19 日～7 月 10 日 |
| (7) 調査機関 | 株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所    |

## 4 回収結果

---

- |           |                         |
|-----------|-------------------------|
| (1) 発送数   | 3,000 人 (100.0%)        |
| (2) 回収数   | 1,421 人 (47.3%)         |
|           | 【内訳】 郵送回答：958 人 (31.9%) |
|           | インターネット回答：463 人 (15.4%) |
| (3) 有効回収数 | 1,417 人 (47.2%)         |
|           | 【内訳】 郵送回答：954 人 (31.8%) |
|           | インターネット回答：463 人 (15.4%) |

※有効回収数は、回収したが記入のない（または少ない）調査票を除いて集計した数。

## 5 居住地区別回収率

居住地区	発送数（人）	有効回収数（人）	有効回収率（％）
吉原	82	38	46. 3
伝法	145	84	57. 9
今泉	115	78	67. 8
神戸	53	24	45. 3
広見	152	55	36. 2
青葉台	131	33	25. 2
大淵	133	79	59. 4
富士見台	45	20	44. 4
原田	48	30	62. 5
吉永	56	21	37. 5
吉永北	24	8	33. 3
須津	94	43	45. 7
浮島	12	4	33. 3
元吉原	72	36	50. 0
富士駅北	154	79	51. 3
富士北	138	68	49. 3
富士駅南	184	90	48. 9
田子浦	193	84	43. 5
富士南	295	140	47. 5
岩松	142	73	51. 4
岩松北	141	40	28. 4
鷹岡	165	88	53. 3
丘	194	69	35. 6
天間	80	36	45. 0
富士川	84	47	56. 0
松野	68	34	50. 0
分からない	—	3	—
無回答	—	13	—
合 計	3, 000	1, 417	47. 2

## 6 報告書を読む際の注意事項

- 1 各設問の表の中や欄外に記載した回答割合の比率はすべて百分比で表し、小数第2位を四捨五入している。このため百分比の合計が100%にならないことや、複数の合計が合わないことがある。
- 2 基数となるべき回答者数は、nと表示しており、回答比率はこれを100%として算出した。
- 3 1つの質問に2つ以上回答できる設問の場合は、百分比の合計が100%を超える場合がある。
- 4 選択肢の文章が長い場合、グラフ上では省略して表記していることがある。
- 5 分析の軸にある性別は、「その他」の件数が少ないため、グラフへの掲載は省略している（「その他」の回答割合は、165ページ以降の『VI. 結果の数表』を参照）。また、年代は10代の件数が少ないため、20代とまとめて「20代以下」としている。
- 6 回答者数の少ない設問は、表のみの掲載とし、コメントは割愛している。
- 7 分析の軸として用いたライフステージは、次のように分類している。

<b>独身期</b>	18～39歳の未婚者
<b>家族形成期</b>	第一子が未就学児、または40歳未満の夫妻のみ
<b>家族成長前期</b>	第一子が小・中学生
<b>家族成長後期</b>	第一子が高校生・予備校生・大学受験生・短大・高専・大学・大学院・専門学校などの学生
<b>家族成熟期</b>	第一子が学校教育終了
<b>老齢期</b>	60歳以上の人

※ 家族形成期～家族成熟期の子どもがいる人は、いずれも60歳未満の人とした。40代・50代の未婚者、40代・50代の夫妻のみなど、分類されていない層がある。

7 この調査は、無作為抽出により対象者を抽出したので、標本誤差は次式で近似できる。

$$\varepsilon = 2 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

$\varepsilon$  : 標本誤差  
 $n$  : 標本の大きさ  
 $P$  : 回答比率

回答者総数（1,417 人）を 100%とする質問で、ある回答選択肢に対する回答比率が 50%であるとする、母集団（18 歳以上 80 歳未満の富士市民全体）の回答比率は 47.34%～52.66%の間であると推定される。

回答比率	標本誤差
50%	±2.66%
60%または 40%	±2.60%
70%または 30%	±2.43%
80%または 20%	±2.13%
90%または 10%	±1.59%